

舞鶴ふるさと発見館（舞鶴市郷土資料館）だより

令和3年11月

☆海軍鎮守府開庁120年記念企画「近代舞鶴の礎を築いた伊藤雋吉」

10月1日は、明治34年(1901)に旧海軍舞鶴鎮守府が開庁して120周年にあたります。この鎮守府開庁に大きな役割を担ったのが伊藤雋吉です。伊藤雋吉は舞鶴市手代町(現宮津口)出身の下級武士ですが、明治維新後新政府に出仕して、海軍創設に関わりました。舞鶴鎮守府建設時には海軍次官として樺山・仁禮・西郷の三大臣に仕えました。今月の城下町コーナーは伊藤雋吉ゆかりの品を展示いたします。



(男爵授与状)

☆今月の一品



今月の一品は大砲に鑄付けられた野田笛浦(のだてきほ)の文字型(國松家文書)です。

この「敵(てき)」「愾(がい)」の字は、田辺藩の家老をつとめ海防と学問所の改革に力を注いだ野田笛浦が書いたものです。戦前の明倫小学校に据えられていた大砲には大きいものに「震(しん)為(い)雷(らい)」、小さいものに「敵愾」の字が鑄付けられていました。大砲を製造した國松家にはこの「敵」「愾」の文字型がのこされていました。「敵愾」とは敵を打ち負かそうとする気概、「震為雷」は

大地を震わすような雷を意味します。この大砲は、幕末に田辺藩が御台場に築造したもので、ちょうど江戸の遊学から帰藩していた伊藤雋吉が築造の陣頭指揮をとり、試射では、上官では飛ばなかったものを伊藤雋吉は見事に成功したという逸話が残されています。

☆サロンスペースでは昭和12年から19年迄の舞鶴市近辺の戦没者の新聞記事を切り抜いて軸に仕立てたものを展示しています。布川もと氏が送り出した兵隊さんが戦没する事に心を痛み、慰霊のために始めたそうです。なんと11本もの大きな軸になりましたが。昭和20年には戦死者が余りに多く断念したそうです。今回はこのうち、12年、14年頃、19年の3本を展示しています。



☆糸井文庫コーナーは明治の浮世絵②です。



お問い合わせは

舞鶴ふるさと発見館(舞鶴市郷土資料館)

TEL:0773-75-8836

(受付時間 9:00~16:30)

FAX:0773-77-1314

住所:舞鶴市字南田辺1番地

(ゆうさい会館(西総合会館)1F北側)

展示室入場料:大人 100 円、
市外学生 50 円

サロンスペース:無料

休館日:1(月)・4(木)・8(月)・15(月)・22(月)・
24(水)・29(月)



新型コロナウイルス感染予防対策として消毒・マスク着用・ソーシャルディスタンスにご協力ください。

また、体温計測、来館者名簿への記名をお願いしています。皆様のご協力をよろしくお願いいたします。